

第15・16回 知って得するよもやま塾

去る2011年7月29日当院の講堂にて『第15回 知って得するよもやま塾』を行いました。当院・循環器内科・医長 金森先生より「知って得する不整脈のはなし」、不整脈のメカニズムやその治療について解説。栄養管理科・岩谷 聡主任より「知って得する減塩のはなし」といづれも日ごろ気になるトピックについてわかりやすく講義がありました。



同じく2011年10月5日の『第16回 知って得するよもやま塾』は、当院・形成外科部長 辻口先生が「形成外科って何?」という内容で講義、当院で扱った衝撃的な症例の数々を爽やかに解説。形成外科の技術力を実感いただきました。看護ヘルスケアチームより「ノロ対策について」を講義。ノロウイルスが発生した頃の話からその対策までを一般の皆さんにわかりやすく解説しました。当日は、多数来場いただき、大いに盛り上がりました。



がんサーボード実施

がんサーボード (cancer board) とは、がん診療に関わる内科系、外科系、診断学系の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、事務系職員などの専門職員が職種を超えて集まり、がん患者さんの状態に応じた適切な治療方針などについて意見交換・共有・検討・確認等を行うカンファレンスのことです。当院でも定例カンファレンスとして2011年7月29日よりスタートいたしました。



平成23年度 東住吉森本病院大規模災害訓練

去る2011年10月23日(日)、毎年恒例の病院大規模災害訓練を実施いたしました。「平成23年10月24日(月)午前9時35分、上町断層にM7.0直下型地震発生、震源など未発表。」という設定で職員182人が参加しました。実際に始まる想定外のケースが多々発生し、あらためて「備えの重要性」を知りました。当日は大阪市消防局の方々も備えいただき年々クオリティーがあがっているという総評を頂きました。



編集後記

広報室 M

先日、埼玉のこども自然動物園へ行って来ました。ここは東京・池袋から武東上線急行に乗って50分+バス5分程度の場所にあります、山の中の施設です。珍しい動物や、ちょっと元気のいい動物は檻の中なのですが、比較のおとなしい動物は牧場のような所でつるいでおり、一般の私たちの中に入って触れることができます。仔ヤギや羊など、人間に慣れている大変カワイイのですが、珍しい系でビックリ(;_ _)したのは、写真のミアキャットでした!! Youtubeでしか見たことがないレアさに感動、、、、見入ってしまいました。(しかも彼ら、ホントに穴ぐら住まいでした!)



学会など関東方面に行かれた際は、気分転換に足を延ばされてみてはいかがでしょうか? *

*東住吉森本病院のホームページでも情報が日々更新されております。 <http://www.tachibana-med.or.jp>

morimoto report

Vol.5
2011・Nov

<http://www.tachibana-med.or.jp/> 〒546-0014 大阪市東住吉区旗合3丁目2番66号 TEL:06-6606-0010 (代表) Fax:06-6606-0055 発行所: 志村孝夫/美穂恵 山崎孝

当院の整形外科・リウマチ科がサンデー毎日に掲載されました。

サンデー毎日 11.6 増大のサンデー
Excellence 医療新世紀2011のページ
に当院・整形外科・リウマチ科の人工関節置換術が紹介されました。

シリーズ 医療新世紀



整形外科医からのひとこと

- ①痛 膝太部 (いぬいけんたう) 膝の痛みは、膝関節の軟骨がすり減ることで起こります。軟骨は再生しないため、痛みがひどくなると手術が必要になります。当院では、人工関節置換術により、痛みを軽減し、歩行能力を回復させることができます。
- ②心臓病 藤田 (ふじた) 心臓病は、生活習慣病の一つです。高血圧、高脂血症、糖尿病などが原因で起こります。早期発見・早期治療が重要です。当院では、心臓病の予防と治療に力を入れています。
- ③脳卒中 藤田 (ふじた) 脳卒中は、脳の血管が詰まることで起こります。手足の麻痺、言語障害、意識障害などが起こります。早期発見・早期治療が重要です。当院では、脳卒中の予防と治療に力を入れています。
- ④がん 藤田 (ふじた) がんは、細胞が異常に増殖することで起こります。早期発見・早期治療が重要です。当院では、がんの予防と治療に力を入れています。
- ⑤糖尿病 藤田 (ふじた) 糖尿病は、血糖値が高くなることで起こります。合併症のリスクが高くなります。早期発見・早期治療が重要です。当院では、糖尿病の予防と治療に力を入れています。



医療法人会 東住吉森本病院
〒546-0014 大阪市東住吉区旗合3丁目2番66号
TEL: 06-6606-0010 (代表)
<http://www.tachibana-med.or.jp/>
診療科目: 内科、小児科、外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、放射線科、理学療法科、作業療法科、心療内科、リハビリテーション科

理想的なチーム医療体制が治療の質を高める



後 藤太部 (いぬいけんたう)
大阪府立大学医学部形成外科、医学博士、日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定専門医

痛みを取って機能回復を期待できる人工関節
人工関節置換術は、膝関節の軟骨がすり減ることで起こります。軟骨は再生しないため、痛みがひどくなると手術が必要になります。当院では、人工関節置換術により、痛みを軽減し、歩行能力を回復させることができます。



人工関節置換術の様子。人工関節置換術は、膝関節の軟骨がすり減ることで起こります。軟骨は再生しないため、痛みがひどくなると手術が必要になります。当院では、人工関節置換術により、痛みを軽減し、歩行能力を回復させることができます。

医療新世紀2011 クローズアップ整形外科
多部位に対応する 人工関節置換術
乾 健太郎 先生
医療法人会 東住吉森本病院
整形外科 リウマチ科 専門医

平成23年度救急隊症例検討会開催

去る2011年10月7日
地域の救急隊の皆さんを
対象に症例検討会が行な
われました。当院より消
化器内科内視鏡部長・仲
川先生、脳神経外科医長・
磯野先生、ICU部長・西
田先生が臨床の指導助言
を行ないました。



禁煙外来スタートしました。

2011年10月1日
より当院は施設内禁
煙を実施いたしました。
それに伴い、禁
煙外来をスタートい
たしました。是非、
ご利用ください。

禁煙外来
スタートします
毎週 火曜日・金曜日
呼吸器内科にて実施
受付時間 8:30~17:00

第14回 東住吉ハートカンファレンス

去る2011年8月27日、第14回東住吉ハートカンファレンスが開催されました。今回の東住吉ハートカンファレンスは、研修医や、呼吸器内科からの発表がありヴァリエティーに富んでおりました。当院研修医より高田先生、寺川先生がそれぞれ「心不全で入院した心房中隔欠損の一例」、「重症大動脈狭窄症と中等度僧帽弁閉鎖不全症による心不全の一例」というタイトルで発表し、経皮的カテーテル心房中隔欠損閉鎖術や心臓血管外科手術適用の話題について述べました。続いて八木先生より「肺塞栓症の一例」について症例検討がありCOPD既往がある80歳女性の肺塞栓症の症例を中心に抗凝固療法やIVCフィルターの適用などについて詳しく解説しました。急性肺血栓塞栓症は急性期を乗り切れば予後は良好のため早期診断治療が最も重要であることも述べました。後半の講演では4月より新設された呼吸器内科・伴先生より「COPD 傾向と対策」という内容で講演がありました。COPDの定義から始まり、スパイロメトリーを使った肺機能検査による診断、薬物療法や重症度に応じたリハビリテーションの選択、増悪期、安定期の管理など全身疾患であるCOPDを系統だてて解説しました。講義の締めくくりとして「傾向と対策」というタイトルから参加者への簡単(?)な問題と回答といったユニークな演出で会場を盛り上げました。



第2回 南大阪末梢循環セミナー

去る2011年10月22日、第2回 南大阪末梢循環セミナーが開催されました。今回は、末梢動脈疾患(PAD)について心臓血管外科、循環器内科の両側面から講演がありました。

当院 心臓血管センター 心臓血管外科 部長・南村先生は「当院での末梢動脈疾患(PAD)の外科治療経験」という内容で講演しました。当院で行った末梢動脈疾患手術症例を報告し 発熱 臀部痛で診断された感染性遺残坐骨動脈瘤に対する非常に稀な手術例や 急性下肢虚血をきたした両側膝窩動脈瘤の手術症例について講演しました。特別講演として兵庫医科大学 内科学 内分泌・代謝科 准教授 小山先生からは、「末梢動脈疾患(PAD)を内科的にどのように管理するか!」という講義がありました。早期発見が比較的困難なPADについてそのリスクファクターを解説し、PAD危険因子の管理方法をアルゴリズムで示されました。また、糖尿病、腎不全に共通した病態関連因子AGEとその受容体RAGEについての最新の研究状況を報告されました。



第2回 大阪市南部地区医療講演会

去る2011年10月20日、地域医療機関の先生方を対象に第2回大阪市南部地区医療講演会が開催されました。当院で扱った症例とその治療アプローチを各科専門の先生が、写真・動画などのエビデンスを使い、解説しました。

整形外科からは、川端先生が「当院における手外科診療の現況—特に手術症例に関して—」という題名で講演しました。手外科の守備範囲からその治療方法(保存的治療・手術の種類)、術式のトレンドを説明したうえで、橈骨遠位端骨折の関節鏡手術の成功例について動画にて解説。また橈骨遠位端骨折変形治療と 舟状骨偽関節の難治症例や、変性疾患である関節リウマチについても解説がありました。

循環器内科 宮崎先生は、「どう使う?心臓血管エコー;当院における実際」という題名で講演しました。「心不全や心筋梗塞の診断に心エコーをどう使うか?」「いつ経食道心エコーをオーダーすべきか?」など画像を中心に日常よく遭遇する状況を想定した実践的なレクチャーが展開されました。また負荷心エコーや冠動脈エコーによる狭心症の診断、血管エコーガイドによる下肢動脈形成術といった、当院ならではの高度な心臓血管エコーの利用法についても実際の施行法や現況を提示しました。

消化器内科からは、肝胆膵内科部長・巖さこ先生が「肝がんの早期発見・早期治療—がん診療拠点病院としての役割—」という題名で講演しました。全国的に見て西日本に多く見られる肝がんの統計や肝炎ウイルスの話、発生のメカニズムを詳しく説明し、その治療適応をアルゴリズムで提示。治療方法に関しては外科的手術、TAE、PEIT、PMCT、RFAなどの解説がありました。

当院、副院長・がん診療センター長 田中先生は、「急性期から終末期医療までの総合的な地域完結型がん診療を目指して—がん診療拠点病院としての取り組み—」という題名で講演しました。がん診療拠点病院としての当院の取り組みを大阪府の部会活動なども含め報告し、南部地域での当院の積極的ながん診療体制をアピールしました。また当院の得意分野でもある腹腔鏡下大腸がん手術や肝転移に対する肝切除術について詳しく解説がありました。

